

白鳥を愛された慈父の人

—松井先生の思い出—

西成辰雄

019-0504 十文字町十文字新田字東町1

松井繁先生にお目にかかったのは1990年2月、当町での日本白鳥の会の主催する研修会に会長として、また講師としてお出でになられた時である。遠路、ご多用の中をお出でくださったと思う。その折、先生から御著「雪国のハクチョウ」をご恵与いただいた。全国での研修会としては15回目であった。カラー版の見事な先生の撮られた数々の白鳥の姿、そしてご解説と、貴重なご本として大事にさせていただいた。私たちの町は秋田県南部地方にあり、雄物川の支流である皆瀬川が町の西部を流れ、その岸边近く、やや蛇行するゆるやかな流れに冬を過ごす白鳥が例年1月頃を中心に900羽ほどが秋から飛来し羽を休めている。

先生のご本には観察された白鳥の姿と共にその種類や生態、また繁殖地などを含め、きめ細かにわかり易く解説されており、白鳥への思いを新たにされた。先生は豊富なスライドを用い、その優雅な姿と様々な行動、また飛来する経路を含め興味深い有益なものであった。またこの研修会では松井先生を始めとしていく人かの方々の研究発表もなされ、得る所の多いものであった。当時、秋田県には3500羽ほどの白鳥が飛来し、その過半数は当町の皆瀬川で過ごしていたが、近隣の川や沼に移動している。ちなみにカモ類は最近の集計で同じ皆瀬川で2900羽ほどとなっている。

松井先生のご本では知床に近い野付湾には5000羽以上の白鳥が飛来し世界一の越冬地とのべられていた。また野付湾での日の出のお写真は見事な絶景とも言うべきものであった。また飛翔への水面での助走や躍動的な羽ばたき、そして着水、家族、親子など、その思いがこめられた美しい写真であった。自然の中で心を共有され、愛情に満ちた内容であった。先生はお忙しい中にもその記録を通じて、自然保護を訴え実践された方でもあった。釧路湿原など国際湿原保護条約（ラムサール条約）についても解説されている。私も陸奥湾や山形県酒田市の最上川河口まで新潟県の瓢湖などにも訪れているが、先生の出会い、ご教示はその原点ともなるものであった。

当町の皆瀬川は、宮城、岩手県にもまたがる栗駒山系から流れ、清明な中に、朝の日差しが川面の色調を刻々と変化させ、また対岸には日没に近く西に望む鳥海山（標高2230m）があり、白鳥の群れと共に夕陽が映える。対岸ともなる南部に隣接する湯沢市に写真家であり、もと建設省の職員もされた最上緑平氏は数々の鳥類の観察や記録の写真「自然のメッセージ」なども刊行されているが、この白鳥飛来地での出会いのあと、度々お会いさせていただいており、最近（2年ほど前）に氏の原作の「白鳥の詩・志摩の恋人」が地元の音楽家によって作曲され、地元のコーラスや声楽家、またピアノを始め各種の演奏に合わせ。約2時間の「映像音楽詩。鳥夢想オンステージ」

として上演され感銘を呼んだ。氏は白鳥がロシア・シベリアの地から飛来していることから縁を得て北極圏に望むノボシビルスク市の音楽院を訪ね、交流やこの音楽詩の上演も企画している。秋田市での上演も具体化しているが、将来現地（同市）での公演も具体化される見通しとなっている。

自然への愛情と共生、松井先生のご活躍に敬意を表しながら、その後のこれら最近の当地で状況も合わせてご報告し、白鳥そして自然を愛された慈父の人ともいふべき松井先生に表敬を感謝の一端をのべさせていただく。（前十文字町長）